

オリヤー文字

山部 順治

オリヤー文字を使う言語は、インド・オリッサ州の公用語であるオリヤー語(約 3000 万人)です。「オリヤー」は、「オリヤ」(英語 Oriya)とも書かれます。

「こんにちは」をオリヤー文字で書くと、

ନମସ୍କାର	ସ୍କ	ସ + କ
no mə ska ra	sko	so + ko

発音は、[nɔməskara] または [nɔməskar] です。

オリヤー文字の(特に子音字の)外見上の特徴は、第 1 に、個々の文字は、曲線部分が多いのだが、それにとどまらず、全体として 1 つの丸であるかのような印象を与えることです。これは、曲線部分が大きな丸や大きな弧であることによります。手書きでは、丸の部分は、しばしば、活字でよりもさらに大きく書かれます。第 2 の特徴は、単語をなす個々の文字が連続しないことです。これは、デーヴァナーガリー文字やベンガル文字に見られる上線(シローレーカー)がないためです。文字の頭の部分をなす大きな弧がそれに対応します。

オリヤー語は、言語の系統としては、隣接した地域で話されるヒンディー語やベンガル語とともに印欧語インド語派(=インド・アーリア諸語)に属します。その一方で、インド語派の中で東南の端に位置し、異系統の言語であるドラヴィダ諸語とも隣接しています。

オリヤー語は、以上のような系統的な位置付けと、地理的な位置付けとに呼応して、言語のいろいろな側面(例えば、発音や文法)において、本来的な印欧語的な特徴と、接触によって取り入れたドラヴィダ語的な特徴とを合わせ持つことが知られています。

同じことが、オリヤー語を表す文字についても言えます。まず曲線部分が多いことと上線がないことでは、ドラヴィダ諸語の文字と類似しており、デーヴァナーガリー文字やベンガル文字とは対照をなします。一方、これら 2 点を捨象して文字の各構成部分を見ると、デーヴァナーガリー文字やベンガル文字との対応付けは非常に明快です。

「文字一覧表」にあげられた文字のほかに、文字がいくつかあります。そのうち 2 つの子音字に触れます。𑎎 [ɟ̌] (子音字 26) と 𑎎 [ľ] (子音字 28) に対して、それぞれに、似ていて異なる音を表す文字 𑎎 [j] と 𑎎 [ľ] があります。

𑎎 [ɟ̌]	𑎎 [ɟ̌] [prɔɟ̌əťnɔ] (努力)	𑎎 [j]	𑎎 [j] [prɔjɔgɔ] (使用)
𑎎 [ľ]	𑎎 [ľ] [pʰulɔ] (果实)	𑎎 [ľ]	𑎎 [ľ] [pʰɔɟ̌] (花)

これらの文字対が表す音は、元来は、同一でした。オリヤー語において発音が歴史的に変化したために生じた、音の区別・文字の区別です。同系のほかの言語では現在も、同じ音であって(例えば、ヒンディー語では、上記の語は、それぞれ [prəjəťnə] [prəjoːg], [pʰuːľ] [pʰəľ])、同じ文字で表されます。

さて、冒頭であげた挨拶に戻ると、nɔməs は、デーヴァナーガリー文字の解説 (p.165) にもある namas と同一の語です。言語が異なって表現の仔細が異なっても、挨拶において交わされる趣旨 相手への敬意 は同じです。

[参考文献]

- 白田雅之「オリヤー語」、『世界のことば小事典』(柴田武編)、大修館書店、pp.126 - 129, 1993.
- 中西亮「オリヤー文字」、『世界の文字』、みずうみ書房、pp.32 - 33, 1975.

(町田和彦編著『華麗なるインド系文字』白水社 2001, pp. 176-177 より転載)